

最近気になってきているキーワードがある。それは、総合・総合（そうごう）、統合（とうごう）という言葉だ。いろんな歴史を振り返ると、目に見えるものから見えないものへ、全体から部分へと研究が進んできた。

しかし、過度な細分化による弊害や反省から、ふたたび全体を把握する重要性が叫ばれることも少なくない。そこで、木を見て森を見ず、などとならないように、一般から各項目へと考えていく方向性がよいだろう。

◆ プリマドンナの視点

私が長年専攻してきた領域はプライマリ・ケア（PC）医学である。ただ、この概念をびったりと和訳できる言葉がないため、総合診療や総合診療医、総合医、総合内科などの用語が使われてきた。

プライマリケアは、一次的というものを観察して総合的に判断し、全体をまとめた上で適切な戦略や戦術を示すことができるからだろう。そのため、いろいろな組織でトップの能力を有する人が general であると評価されているのかもしれない。

◆ 総合と総合

以前から、総合と総合とはいったいどかが異なるのだろうか疑問に思っていた。このたび調べてみると、戦後の国語改革が一因であることがわかった。本来は総合と記されていたのだが、使用する漢字を制限するため、総合との記載で代用しようだ。

従って、両者の意味は同じである。ただ、創業時の名前で登録され変更なければ古い漢字が使われる。たとえば、総合警備保障や総合医療、日本総合医療学会などである。他の漢字の例として、野村證券や新日本製鐵などもみられる。祖母の智慧袋（知恵袋）のように、古い字をみると、歴史も信用も備えた老舗のニュアンスや価値観が伝わってくるようだ。

◆ 統合は意味が異なる

りもむしろ、主な、重要な、主役のという意味を表す。たとえば、オペラ歌手は「プリマドンナ」と呼ばれるが、プリマ（主役の）+ドンナ（女性）という成り立ちだ。そのため、PCとは「大切なケア、主役となる癒し」を示している。

関連するテレビ番組として「ドクターG」をご存じだろうか。Gとはジェネラル（general）を示し、全体を総合的に診察できる医師のこと。広くそして深い知識が求められ、あらゆる可能性を考えここから最終診断へと絞っていく。このプロセスは、探偵シャーロック・ホームズが犯人をつきとめていくのと同じであり、意義深くそして挑戦的な作業といえよう。

◆ ジェネラルはトップ

英語のジェネラルは、日本では一般

実は、医療界をみわたすと、総合医療もあれば統合医療もある。何がいったい違うのか？ 総合医療はPC医学に近く、内科や外科など様々な疾病を含むものといえはわかりやすい。一方、統合医療はいろいろな施術を併せ組み合わせるものと説明できよう。

たとえば、学生が勉強する総合問題集や会社の総合職などから、総合とはそれぞれ別個のものを含有しているものだ。逆に、複数の市町村を統合するように、統合とは同質のものが数として一つにまとめられ、統一的に合わせられると考えてよい。

ほかには、コンピュータが普及した現在、ツールソフトウェアなどでも、総合ツールとか統合ツールなどと呼ばれる。ただ、微妙なところはクリエイターカットに分けられず、これらの差異を考えてみるのも、なかなか面白いものかもしれない。

このように、総合診療には内科や外科、他科などが含まれ、個々の各技術はおおむね変わらず、総合的能力が必要な領域とされよう。

一方、統合医療には音楽療法やヨガ、漢方、アロマセラピーなどが含まれ、

とか総合などと訳されるのが普通である。そのために、ジェネラルとは専門家ではなく、概して浅く広いもので、それほど高い質ではなさそうだとイメージを持っているかもしれない。

ところが、実際には全く逆なのだ。極めて値打ちがあり高く評価されていることがわかった。

近代以降の軍隊では、陸軍・空軍・海兵隊で将官以上の階級に、准将、少将、中将、大将がある。そのすべてにGeneralが付く。驚くことに、将官の上に位置する元帥もGeneralと呼ぶ。かの有名なマッカーサー元帥においても、英語ではGeneral MacArthurに。以上をひっくり返して、わが国で階級を示す場合には将軍が使用される。

なぜgeneralには、このような意味があるのだろうか？ 語源を調べるとgenus（種、種族、種類）+性（性質）となるらしい。すなわち、あらゆるも

多様な手技や施術が合わさって個々の変化が起こりうる。今後の医療には変革の可能性があり、期待したい。

最近気になっているキーワードがある。それは、総合、総合（そうごう）、統合（とうごう）という言葉だ。いろんな歴史を振り返ってみると、目に見えるものから見えないものへ、全体から部分へと研究が進んできた。

しかし、過度な細分化による弊害や反省から、ふたたび全体を把握する重要性が叫ばれることも少なくない。そこで、木を見て森を見ず、などとならないようにしたいものだ。そこで、最初は広く「鳥の目」で見て、その後局所を「虫の目」で見ていくというのはどうだろうか。一般から各項目へと考えていく方向性がよいだろう。

